【1面から】　国民そっちのけで政争ばかり。裏金問題も無反省で物価高騰への経済対策も無策。消費減税もせずに大軍拡を進めている」と指摘しました。

市政について、「第7次高松市総合計画」への問題点を報告。「四国新幹線や高松環状道路、世界都市高松として高松港周辺のサンポート地区の巨大開発、高松競輪場の再整備など大型開発の予算ばかりで、物価高騰対策にもなる住民福祉の根幹の下水道事業での使用料の値上げと民間委託（ウォーターPPP）など住民の福祉向上には後ろ向きだ」と述べました。

学校給食の無償化、中央公園の再整備とそれに関わる洋菓子店への委託事業やトイレの買い取り問題、平和への課題として高松港や今後の高松空港の特定利用空港・港湾指定の問題や、批准が求められる核兵器禁止条約などをパワーポイントでわかりやすく解説しました。

藤沢氏は「電気、ガス、ガソリン代などの物価高騰で食料品やコメの値段も上がっている」と指摘。「消費者にはコメの値段は高いが、農家の自給は安すぎて赤字。十年後、香川で後継者がいない農地が7割と言われている」と食と農の課題を挙げ、食料自給率の向上と農業予算の確保、市に兼業農家や小規模農家を含む物価高騰支援を求めたことなど9月議会の内容を報告しました。

田辺氏は「裏金問題での党や赤旗、そして皆さんの頑張りが自公連立政権崩壊まで追い詰めた」と指摘。自民と維新の連立による議員定数削減や医療・介護分野での四兆円もの予算削減など「数の力での強行を許してはならない」と訴えました。

協同病院が健康まつり

10月19日に第19回高松協同病院健康まつりが、香川医療生活協同組合の地域支部との協力で行われました。「出あい、ふれあい、支えあい、心をつなぐまちづくり」をテーマに支部や地域の方々635名の参加により、バザーや舞台演技、健康チェックなどで楽しい交流の時間が持てました。

えびすハッピー子ども食堂も出店し、駄菓子や野菜の販売をしながら、この地域にあ

保育の今②

秋です。読書、スポーツ、食欲、と色々ですが、秋は次の年の予算要求を行う季節でもあります。保育園に勤めて経験の浅い保育士さんは、自治体や国に要望を、と言われてもなかなか出てきませんが、「では、今困っていることは何ですか」と聞かれると、「給料が安い」「土曜日を休みにしてほしい」「休憩をゆっくりととりたい」と出てきます。

子どもが好きで、はりきって保育士になったはずなのに、日々の忙しさに疲れ、保育が嫌いになってしまったという若い保育士の話や離職した話はあちこちで聞かれます。

こども家庭庁の調査では、保育施設の８割が保育士不足を感じており、自治体も約半数が、ほとんどの地域で不足していると回答しています。

多くの保育施設では、国の配置基準よりも多くの保育士を確保して保育を行いつつ保育以外の業務にあたっています。岸田政権時、保育士の処遇改善にひとり9000円の賃金ＵＰをということが話題になりました。が、ふたを開けてみると一時保育や子育て支援等の保育士は対象外とされるため、保育施設に支給される金額を職員全員で分けると少なくなるという矛盾がうまれています。

保育が大変なのは自分に技術や力が不足しているからではないこと、賃金が上がらないのは国の制度自体に問題があり、それをかえようと沢山の人が声を上げることが大切なのだ、と訴えて「保育、学童保育予算の大幅引き上げを」の署名を広げる秋でもあります。

姫田　史

【2面から】　る子ども食堂のことを知ってもらう機会となりました。

また、木太町革新懇は「たかまつみみの会」の活動として、加齢性難聴の助成の署名を91筆集め、聞こえのセルフチェックとアンケートの実施を20名、災害時の避難困難者向けのバンダナを35枚配布しました。

また、保育者の待遇改善等を求める保育署名を45筆、深刻な教員不足の解消などを求める「香川の教育をよくする会」の署名を50筆集めて、地域の福祉や教育を充実させるための活動を行いました。

観音寺市議選が目前

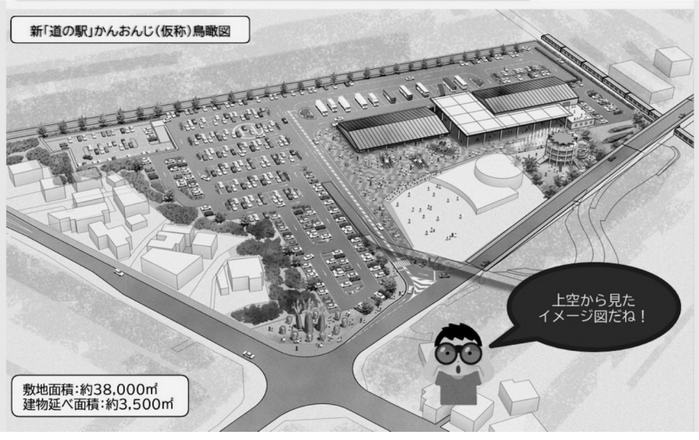
ふじた市議　再選に全力

観音寺市会議員選挙（11月9日告示、16日投票）が目前に迫ってきました。日本共産党のふじた均市議は4期目に挑戦します。市議選は、定数が前回より2減の18となり、これを現職と有力新人の22人程度が争う大激戦。また市長選挙が同時にたたかわれ、現職の佐伯市長や現職市議など有力な数人が激突しています。

選挙では、ちょうさ会館のまわりに建設する新「道の駅」の建設が大争点となっています。新「道の駅」の広さは3・8万㎡と栗林公園の約四分の一。建設には、78億円の税金をかけますが、そのうちの19億円は観音寺市の負担です。道の駅としては「中四国最大」といいますが、いまだに計画全体は不透明なうえ、利用客が85万人を超えてやっと採算が取れるといいます。市議名勝といわれる栗林公園でさえ一昨年の年間利用客は75万人。目玉になるような施設もない新「道の駅」に毎年それ以上の利用客を見込むのは過大な予測であり、施設の維持や運営が赤字になれば、巨額の負債を市が抱えることになるのではないかと不安が広がっています。

ふじた市議は、2年前に市がこの計画を持ち出したときには、ただ一人「いろいろな問題がある」と反対しました。これが今では市民の声となり、市会議員の中にも反対派が増えています。

ふじた市議は、無謀な開発に19億円もの税金を使うのではなく、市民のくらしへまわせば、例えば全市民の水道料金の基本料金なら4年以上無料にできることや、国保税の18歳までの子どもにかかる均等割に回せば120年分に当たること、第3子まで無料となった学校給食費をいますぐ全額無料にできることを訴えています。

こうしたふじた市議の訴えに、市民からは「税金は新道の駅より、暮らしに回してほしい」などの声がひろがりはじめています。

観音寺市議選挙の対策事務所は、少数激戦の厳しい選挙を勝ち抜くために、現地に入ってビラ配布などの協力や、市内の知人へ支持を広げてほしいと訴えています。